

判決

山縣志數部上守御令打第百六十一番

屋敷手民

原告人

秋本三十一

山地方裁判所 應辯護士

右許訟代理人

小河源一

山縣志數部小知打第五百七十八番 屋敷手民

被告一人

秋本三十一

山地方裁判所 應辯護士

右許訟代理人

大隈復三

山縣志數部小知打第百六十一番 屋敷手民

被告一人

秋本三十一

二 坂 崎 村 人

右当事者同、明治三十三年丁、第二号隠居無効及隠居取消
請求事件、付当地裁判所、換筆手島直見郎、主合次、
審理判決ス、ト九ノ由シ

明治三十三年十二月二日当地裁判所、意欲シ、凡夫裁判決、之ヲ裁奪ス、
台帳、吉取新小郡村、第五百七十八号、在敷、前戸主原告、秋本モト
、明治三十三年五月二十日、隠居無効、是、ト、無効トス

原告、原告、請求、之、却下ス
訴訟費用、原告、欠席、依り、生、シ、ル、エ、及、ビ、訴訟費用、却下、
六月、各三日、許、原告、受用、十分、三、原告、之、於、負擔、其他、移、テ

此六ニ於テ負擔ス

再 實

原告、訴訟、代理人、小郡、小郡、村、第五百七十八号、在敷、戸主、原告、モト
カ、明治三十三年、原告、隠居、無効、之、第二号、小郡、村、第五百七十八号、在敷、
主、原告、モト、カ、明治三十三年、五月、廿二日、隠居、取消、ス、可、キ、モ、ト、ス、ト
ノ、判決、ク、求、ム、ト、一、定、ノ、甲、主、ヲ、為、シ、其、事、実、關係、付、テ、原告、ハ、秋本
家、戸主、亡、キ、ニ、由、リ、長、廿、三、日、吉、取、新、小郡、村、明治、廿、年、二月、廿、日、死、去、シ、タル
ニ、依、リ、原告、ハ、原告、同、月、甲、主、若、ク、即、チ、死、跡、ヲ、相、流、シ、秋本家、戸主、ト、ナ
リ、凡、九、年、時、原告、ハ、年、數、併、カ、三、十、歳、未、ニ、知、者、ナ、リ、ト、因、リ、親、族、ノ
協議、ノ、上、本、間、藤、三、郎、ハ、血、子、原告、ハ、後、見、人、ニ、撰、任、シ、タ、リ、降、テ

明治三十三年二月改原告何母之
 母先居改稱ノ事ヨリ改定ノ由リ
 早原告ト増婚セラルトナリ
 告ノ實ニ後ケ得來直下トナリ
 入籍セシメテ後ケ被告ノ父
 余告所有地所悉比皆ノ一
 上ノ度者申込タル所者
 賜心手儘力出テ得テ然
 皆ノ被告ニ豫備ハコトトナ
 被告ノ父先居改稱ノ事ヨリ改定ノ由リ
 早原告ト増婚セラルトナリ
 告ノ實ニ後ケ得來直下トナリ
 入籍セシメテ後ケ被告ノ父
 余告所有地所悉比皆ノ一
 上ノ度者申込タル所者
 賜心手儘力出テ得テ然
 皆ノ被告ニ豫備ハコトトナ

家ハ入籍スルノ月
 被告ノ山ノ學校在
 年ノ年位ニ本意
 被告ノ父先居改稱ノ事ヨリ改定ノ由リ
 早原告ト増婚セラルトナリ
 告ノ實ニ後ケ得來直下トナリ
 入籍セシメテ後ケ被告ノ父
 余告所有地所悉比皆ノ一
 上ノ度者申込タル所者
 賜心手儘力出テ得テ然
 皆ノ被告ニ豫備ハコトトナ

予シモ夏原告事異ト別居ニコトナリ故要悉指リ
 能ハス過ニ有用地主原村ヲ去クテ原籍地中野村ヘ戻シテリ
 當時原告年齡僅カ九歳ニ過キナリトシ且母ノ別悲嘆
 ニ堪ヘナリシコト今尚ホ之トナリ後其後明治廿六年未頃ハ
 原告山ノ郷里村存存事ナリ遂ハ原告長ク山ノ原院施療
 ナリトナリナリ折極原告長ク左期休職トナリ且母ノ許ニ原
 告居シコトナリ其弟治正告ニテ子孫村ニ連綿ニ住ル事ナリ
 就本年元ニ至ナリト云テ其昭三十七年一月申歸校シ今月
 末ヨリ海勢海ニ登リテ加ヘ二月三月ニ全部休校ニ當リ全
 意ニ海後別統ニ登校ナリ然レニ左原告ノ後継前ナリ

被告方親族者屬做加 五妻ニ弟ニ直接ニ弟ニ本間源三郎
 ナリト云告ノ父且ニ廿定家ノ親族近況等ニテ者アリト云ナリ
 討ニ被告ト原告トノ婚姻セシメ誰ト申ハケルニ依テマナリ其真
 根事炎ナリ所リテ誰辨ニ且ツ野ニ口實ハ婚姻不承疎ノ理
 由トナリト辨辨シタルモ做加事ヨクニ私原告ト原告トノ婚
 約ナリト云テ別居婚姻セシメ誰ト云テマナリ非常ニ之ヲ要告シ
 為シ病ヲ患シ患當トテ外床スラト強テ六月及ヒシカ明治
 三十七年十一月年ニ至リ離別ニ書面ヲ持テテ別居親族
 係保ナリト被告ト原告トノ婚姻セシメナリト云テ又ニ別居
 係保ナリト云テ原告ト原告トノ婚姻セシメナリト云テ又ニ別居

二十一人ノ親族一月。抵抗。得可キ非ニ。然レ之ヲ拒ニ親族
ノ知レズ知ラズ。不利益ヲ受テ。思ハカク。論ス。カク。陳辯
シ。ムル。コト。マカ。セ。身。ノ。テ。所。極。極。々。々。ル。若。屬。簡。一。ト。其。下。月。三
ノ親族ト。同。然。別。産。抵抗。シ。魁。ト。思。惟。之。迄。日。是。ヲ。調。仰
シ。ヨリ。其。後。被告。明。法。手。令。一。月。東。京。手。引。傳。傳。シ。同。年。十。月
以。去。我。手。次。即。本。法。亦。有。ル。マ。カ。ニ。對。シ。被告。明。法。三。九。年
四。月。以。去。不。利。有。ル。私。在。家。ニ。引。訴。ス。可。ク。日。通。知。一。年。ヲ。統。テ。做
聊。事。ヨ。テ。マ。カ。ニ。對。シ。被告。ト。被告。ト。敗。魁。界。ト。カ。ク。ト。放
マ。カ。ト。被告。ト。同。居。ス。我。ト。片。騙。面。白。カ。ス。事。ト。被告。モ。山。九。二
第。在。モ。マ。カ。モ。同。地。ヘ。移。住。ス。レ。ト。初。告。シ。タル。付。マ。カ。ニ。對。シ。被告。ト。被

告ト同居ニ其模様ニ因リテ如何トモ可レト言ヘタルニ由リヨテ
被告ト被告ト同居ス。我ト片騙面白カス事ト被告モ山九二
第在モマカモ同地ヘ移住スレト初告シタル付マカニ對シ被告ト被
聊事ヨテマカニ對シ被告ト被告ト敗魁界トカクト放
マカト被告ト同居ス我ト片騙面白カス事ト被告モ山九二
第在モマカモ同地ヘ移住スレト初告シタル付マカニ對シ被告ト被
二十一人ノ親族一月。抵抗。得可キ非ニ。然レ之ヲ拒ニ親族
ノ知レズ知ラズ。不利益ヲ受テ。思ハカク。論ス。カク。陳辯
シ。ムル。コト。マカ。セ。身。ノ。テ。所。極。極。々。々。ル。若。屬。簡。一。ト。其。下。月。三
ノ親族ト。同。然。別。産。抵抗。シ。魁。ト。思。惟。之。迄。日。是。ヲ。調。仰
シ。ヨリ。其。後。被告。明。法。手。令。一。月。東。京。手。引。傳。傳。シ。同。年。十。月
以。去。我。手。次。即。本。法。亦。有。ル。マ。カ。ニ。對。シ。被告。明。法。三。九。年
四。月。以。去。不。利。有。ル。私。在。家。ニ。引。訴。ス。可。ク。日。通。知。一。年。ヲ。統。テ。做
聊。事。ヨ。テ。マ。カ。ニ。對。シ。被告。ト。被告。ト。敗。魁。界。ト。カ。ク。ト。放
マ。カ。ト。被告。ト。同。居。ス。我。ト。片。騙。面。白。カ。ス。事。ト。被告。モ。山。九。二
第。在。モ。マ。カ。モ。同。地。ヘ。移。住。ス。レ。ト。初。告。シ。タル。付。マ。カ。ニ。對。シ。被告。ト。被

告之竟り知れり解ナリ方其成長ニ任ニ身秘本家長
 女ニ向家ニ任任ニト能カレ莫トシ空母ヨリテ本細事歴
 聞知ニ本許ヲ提記スノ慮ヲ至ル決テ想ニ被
 告書初ヨリ秘本家利ヲ生シ意ヲ為ニマカニ養子ト成ル
 モニテテスレテ其父文簡一カ御聊去要ノ共謀ニヨリ秘本家ノ
 賦者ヲ押使セシカ方ノ原告ヲト被告ヲ夫婦ト為ストノ慮ス
 ヲ擲ハ身告ノ實母ニサテシテ其言ヲ候セシマカニ養子ト成
 下同時ニマカニモシテシテ原告ヲ退隠セシテ秘本家ノ
 戸主トシテカコトハ其後ノ仍為ニ傲シテ推知スニ余リ然ラ即チ
 原告ノ隱居ハ少ヨリ時ニ六歳ノ知者ト原告ノ意思表示ニ基テ

上ナルハ勿論其最近尊後親々ハ其母マカニ其意思表示
 下モノナレハ全然無事ト仰シマカニ意思表示アリタリト云ヒテ
 権ヲ棄失セシムルノ意ヲ表示ス其子ニ對テテ初力ヲ殊ニ本件
 原告ノ隱居ハ正當事因ニ基カレモナレハ其無効ト仰リ
 二被告ノ諒リマカニ意思表示アリ且其意思表示ハ原告
 對シ初力カレモナレト云ヒマカニ意思表示ハ詐欺強迫ニ
 二認明ニ云ヒテ原告ノ隱居ハ取消ニ得テ有テ尚又
 原告對シ初力カレマカニ意思表示アリテ其意思表示ハ被
 告トモト被是ニ云ヒ本家秘本ノ將來原告ト婿姻ニ被
 件ニテ原告ノ婿夫トシテ之ヲ稱シカレモナレハ其無効ト云ヒ

社多縁七難縁ノ府出ラシクハ以テ本即往東櫻例ニテ
月三戸主ヲ退サ共定家ニ想籍ニテ竹助合テハ其ノ後
ハ此女ニ於テハ亦取取得可テ者ヲ依テ其ノ後無効
ト其取消トテ併合ニテ同時ニ出テハ此女ニテ社共供述ノ事
定中其告供述ト併合セカハ其ノ後之ヲ認メテ上置述ニテ
被告訴訟代理人ノ原告ノ福亦相立タストノ判決ヲ求メトノ
一定申立ラシク其ノ事定中併合ニ依テ其ノ社共ノ間社縁
右所同ト認メテ多社本洞脚祖先ノ家ヲ分家ニ調遣様
質受テ調遣様造ニ當テ其ノ後事ニシテ其ノ質受テ其ノ
中利息ノ以テ其ノ財產辨リ候カト云ニ認メテ其ノ所ハ其ノ

取カリ養子ニシテ自ラ退隱ニテ其ノ養子ニ相統セシメテ
之ヲ二ハ孫若阿トスニテ其ノ後其ノ社本家表親系ノ受テ調遣
資本ノ以テ其ノ加ハ頼若返掛等負債額ニテ其ノ財力維持
ニ難ク其ノ頼若返掛ノ以テ其ノ多ク其ノ家行候神助ノ遺ニ其
心家業ニ其ノ勤心ニテ其ノ結果先ノ質受ニ其ノ後其ノ加ハ其
子藤九郎ニシテ其ノ後其ノ藤九郎相統後其ノ例ニ依
取カリテ三ハ孫若阿トシテ其ノ以テ其ノ家業ニ其ノ後其ノ
取カリテ其ノ酒造業ニ其ノ相持團親ノ所ハ其ノ三十三上同

ニテ源波ニシテ子有テ依テ其家婦ノ懇情ニ因テ親族
縁ヲテニテ源五ノ例ニ依テ吉原家ノ二男童ニ郎即チ吉
川吉富簡一社分芳ヲ養子ニ迎ヘ以テ其本家ヲ相續セ
ルニ是即チ西ノ海至門ニテ後藤作ト改テ其藤作相續
ノ際ニ其本家表蓮ノ柱ニテ源五ノ海一翁湖口ニ其
ハ有精ナリコト養母ト共ニ家業ヲ励ミ年々ノ源造采符
具法員會ニ任テ其是ニ其家ヲ仰キ百難ヲ排シテ家業ヲ
回復シ其傳化胎終ノ際ニ居村旁ノ萱草社ト呼ビル
ニ主ノ家ニ社ヲ作置テ祖ナリノ原化死ニシテ其子孫繁クシ
テ五ノ源太郎ト稱ス源太郎ノ孫ヲ養子ト郡村ノ酋長ト

仰カレニ主ノコトカニ父ノ遺業ヲテ信々其大ナリト其
實ニ其孫ノ家業ヲ其孫トシテ其傳ノ新築若柳ノ新洲
ヲ始トシ柳柳ニ其ルマテ一人一切ヲ其母ヨリ傳ヘ同把柳造
味法ニ依テ其孫ニ其共結果意ヲ加リ其子孫ニ其子孫
ニ其傳敗ヲ事ス事ニテ其方月柳主ヲ招キ以テ其家業ヲ
傳ケ其年五十一歳ニテ其子孫ニ其子孫トシテ其子孫
其孫告其父即チ是トテ其子孫ニ其子孫トシテ其子孫
其孫自ラ以テ其父ニ其敗ノ跡ヲ其孫ニ其政整現其家業ヲ其
其孫即チ其政工事ヲ其家業ノ一年ニ其堤防敷地ニ其
其孫其止リ其傳ケル其家業ニ其子孫トシテ其子孫トシテ

移轉し用祖以來ノ業ニ履シ身ヲ養フ事ニ任事セシモ
遂ニ明徳ニカク明徳三十二年二月廿九日崩シ二女子
ヲ遺テ死セリナリ七代即有告ニ権カニ命余弱能ハシ身
傳共極ニ達ニん私本家ヲ相続シ共家ヲ守ル由母ヨリ宣好
フキ三人アハニ過キニテ私本家ノ業弊定ニ壞スニ余アリ
於是原告ノ母也母マサ如ノ私本家ヲ親親後後孫余ニ代
原在エハハナテ浦津村ニ移住例ニ依テ吉富簡一ノ三男即十
被告ヲ養子ニ世ヒ出テ家政ニ事ハ嘗テ簡一ニ依頼セシト
一ニ其旨簡一ニ達シタルハ簡一私本家ヲ再興其業ノ事ハ
非ラハレラニ再興ニシテ固辭シタル親族ノ要請也此ノ事

益ニ其要請ヲ容シ明治三十二年五月廿日當時ノ法理ニ依テ
原告ノ父ニテ吉富即養子ニ原告ノ親夫一具在戸籍上ニテ
有告ノ母マカ養子原告ノ親夫ト訂正セラレタル也在戸籍上ニ
テ被告ヲ私本家ハ入籍セシメテ上東陳辯シタル如ク私本家ト
吉富家トニ重傷ノ關係ニテ其關係極ニ深ク普通ノ親
縁ノ如ク論スベキニテ被告ハ私本家親族ノ被訴者
中固家ノ關係ニシカク原告ノ父ニテ其子原告ノ
夫(同上)トシテ太福トシタルモ其入籍ト同時ニ原告退隱
ニ被去戸主トナリタル法理結果ナリテ原告ノ隱居ハ有
高ナリ而シテ被去入籍ノ書附制假所障ノ如ク關係ナク

ル私本家不幸共極重なる事ありしに親親同被
生に改長六共執別凡カ十五可同門ノ擲久ニ新約ヲ守リ
コト再興ヲ計ラシ旨ノ家業即チ地ノ公位ニ樓ノ室カトノ計
アリモ斯ク迄、為ニ及ツト一決ニテ戸至リ被先者身ニ事改
メタル次第ニテ報告ニ限リ、被先者室父箇ニ於テ自置愛テシ
トシテモノテラス、又自家族、即チ報告モト、妹フ平、養母ニカ、
時被先者山に墮ル在、事ノ故ヲ以テ古風家ノ末流、古風道
新先ノ明教ナルヲ事ト、同家ニ移住セシ、自置ヨル、月ツ平、死元
シマサ、孫福地、小郎ニ於テ之ヲ守リ、為ニシタト、懇情
ニ因リ、同村ニ於テ婦人ノ依住、相当ナル家屋ヲ借リ、住ケテ

居住セシ、報告ニ、隆範ニ達シ、九月、山ノ所へ依住セシ
ムル必要ト、思フ所、所行勢、小跡居住、伯母去、居ヨリ、玉姫ニ被
ケル、通學セシ、コトナリ、用事ヨリ、報告ニ、生者、父ノ、父弟、生、在
島ノ、遺子ニ、具テ報告ト、共ニ、其生家ノ、再興ノ、得ル者、存、外
月、二十、依リ、要、之、月、は、英、子、モ、此、コト、ナリ、シ、カ、存、告、之、去、三、即、貴、之
傳、コト、再、復、虚、弱、ニ、テ、遠、尿、癆、ヲ、余、歳、ニ、三、一、夜、ト、テ、遠、尿、
ニ、カ、ハ、コト、ナリ、
系、居、世、カ、ム、リ、ト、事、ハ、其、初、テ、差、モ、不、病、院、長、
共、動、産、經、月、日、同、ニ、生、本、自、酌、之、ニ、テ、キ、ト、新、約、ニ、至、リ、タ、ル
ニ、テ、之、書、時、原、告、ノ、父、之、母、ニ、マ、リ、ノ、故、母、之、刑、癆、病、ノ、コ、ト、
世、評、起、リ、タ、ル、事、ト、新、生、ノ、存、在、ニ、テ、私、本、家、ノ、進、境、ニ、ホ、ル、コ、ト、

遺囑是上ナキコトナレバ 為縁者ニテ家財ヲ執ラシメテ
 酒ノ目的ヲ誤リ又々世評ノ為ニ家財ヲ散ラシメテ恐レ一積血
 涙ヲ飲ミテ縁女親族ニテ明治三十七年十一月一日ヲテ縁告ノ
 宣旨ニシテ始メ親族ノ運命ニテ或理ノ手統ヲ履行シ其ノ
 節ヲ許サズ得々如女既ニ縁女親族ニテ明治三十七年十一月
 日ヲテ縁告ノ宣旨ニシテ親表親縁トナリタル上他日被
 告カ他家ニシテ迎ヘルニ當リテ其ノ感懐面白初ムル人
 情ノ免レザル所ナレバ因リ親族一月様様ノ上明治三十七年六月
 廿九日ヲテ縁告母子方ニシテ其ノ期ウ分ヲ裁セシムル付テ其ノ
 号証契約書ノ如ク被告ニシテ私奉家ノ財産ヲ受取リ置ル

千日ヲ縁告ニ同申内ヲテ其ノ旨ニテトテ其ノ計ナクニ其
 号証契約書ヲ三條第四條ノ條件ニテシテ一且分裁セシメテ
 其成長ノ後他方ニ縁スルカ所ハ一戸ヲ設ケシムルニテ其ノ
 裁トシテ元縁セザリシ縁告并ニ其ノ若即ニ許スル協和ニ基キ
 カルハ限リ保護ノ無ハ一且分裁シテ其ノ旨ニテトテ
 其ノ旨ニテトテ其ノ旨ニテトテ其ノ旨ニテトテ其ノ旨ニテトテ
 縁告ニシテ其ノ旨ニテトテ其ノ旨ニテトテ其ノ旨ニテトテ
 非カレノ旨ニテトテ其ノ旨ニテトテ其ノ旨ニテトテ其ノ旨ニテトテ
 縁告ノ旨ニテトテ其ノ旨ニテトテ其ノ旨ニテトテ其ノ旨ニテトテ
 縁告ノ旨ニテトテ其ノ旨ニテトテ其ノ旨ニテトテ其ノ旨ニテトテ

華美法律ノ結果過キト抗辯ニ高城縣ノ照會ヲ在明
 三十五年四月廿日付事務局長ノ回答ニ明治十七
 年三月十日山梨縣ノ照會ニ在キ五月八日付事務局長ノ
 指示ヲ用ニ氏事新舊共ノ隱居後ニ於テ先國宗ノ係ハ嗣後初
 期ノ可カラズルニシテ舊宗ノ隱居ニ適用スル可カラズルニシテ又
 該國宗ニ在リテ爾レ抗辯ノ原因ニモテ之ニ在リテ後
 婚姻ニシテ其月酌量シテ先國宗ノ善子左様ニ當テ迎ヘテ
 其世戸主ニ當テ之ニ隱居スルコトヲ否メ内長ヲ解決シ
 るコトヲ非レシ其法律ノ目下初力ヲ有スト否ト拘ラズ以テ
 被先抗辯ノ德振下存ニ是又後者ノ親族ノ抗辯外

如戸主隱居其他不測也事情依リ他人ヲ以テ相違セザルコト
 一家浮沈ニ關スル場合ニテ之ヲ要知スル然レテ被先抗辯ノ
 不測左トシテ採用スル人本國宗三郎ニ在リテ之ヲ
 通觀テ存先ノ隱居親族ノ抗辯ニ基キテモ之ヲ明瞭
 コトトモ凡テ當時被先ヲ以テ私等前ヲ相違セシムルコトハ内
 部ノ浮沈ニ關スルハ其高夫ノ隱居其他不測也事情存在シ
 夫等事人ヲ混知スルニ非ズルコト又却テ其所記原三郎ノ隱居
 ニ關スル當時被先家ノ田地十九町有リ且ツ今ノ小作米
 ノミニラズ約七百石ノ多額ニテ之ヲ構テ其其貞實ノ儘力ニ
 約三十四ニ過リテ之ヲ明瞭トシテ當時高夫ノ當有ラズルコト

ト云フ事且ツ多能用人ニ於テ厚兵ノ後身人ト云内家ノ事也
事トモ事実人ニ多事者同ニ事トモ事也ト云甲方モ活ニ據
リ明瞭ニ志也ク有 時僅カニ十六歳ノ月ノ切着カリシ被先カ
秘牙亦多相續ニト云ト内家ノ心沈ニ用セカレテ疑ニ可クモ
アヤルニヨリ其指合モ亦被先抗難ノ意據ト云是又汝ト當
解ニヨリテハ將采戸主トシ希 於此ウ所見ニ事トモ事也ト云
智相統人慶隆臣ヲ慶隆ニ云モ成年ニ達シカルト云ト拘ニ行
政廳ノ許可ヲ度リ可制現ト云ト臣主謀ニ本許存共如キ意
思未示ノ能力モ有ト云ル戸主トシテ其横利ヲ抛棄シ隱居
セシム行 政廳ノ許可ヲ得可クハ勿論大ニ奉許存共隱

居ニ關シテ其許可ヲ得ルノ形跡ナキニ於テヤ 又被先ノ被
先ノ夫名義ヲ入テ入預シタルモノトシテ之ト因附ニ存先隱居シ被
告戸主トシテ法律ノ結果ナリト抗辯シ云フ第一ニ因附ニ存
ラ採用ニ付明治六年第一ノ存先及因附 第一ニ因附ニ存
ニ号存先ノ單ヲ奉士後ニ限リ採用スルニ法律ニ依リ奉許
存先者ノ如キ平民ニ高用ス可クモ之有ルモノト云前記ニモ
此ニ依リ當初被先ノ存先ノ夫名義ニテ入 預シタルモノト明カ
ナリト云其智所原共ニ年數六歳ノ幼童ニシテノ意思表示ノ能力
ヲ有セザルモノト云因附ノ婚姻ノ縁ニ入テ存先ノ夫名義ニテ
第一ニ号存先ノ存先ニテ存先ニテ存先ニテ存先ニテ存先

有先ト被先則ニ受入上筆ニ終天縁セノ關係ノ生シ
ラニ則テトテトノ可カ入既ニ受トモ縁セニ来リ被賜也ト
ノ間ニ將來戸主トナルノ希望ヲ有スルニ過キ免推受家督相
統今地位ヲ受テ可ク者ニヤラサルニ當ル利例ニ於テ認メ先
規トシ来リ被賜也トナル先ケ縁セカカ被得ノ戸主権ヲ受テ可
道理トナシ固リ被先ト被撥モ亦其理同トシ之レヲ要スルニ
係先ヨリ善思表示ヲ爲スル能カナキ時ニ當リ否否ノ理同ナリ
行政廳ノ許可ヲ受ケテ他人ノ爲メニ隱居セシムルモノモ
其隱居ニ無効ナリ實ニ明確ナリ然レ被先ノ意カ目下
分家ノ戸主トナル故ニテ本訴清事ノ裁判決裁ハ其ミテ

有先ノ戸主トナルノ希望ヲ呈スルニヨリ本訴ニ戸籍法工訴ス可
カレ許シテト被先ト被撥ノ生シカ其地位ヲ退カシテ分家スル
コトヲ得カハ勿論トモ被先ノ隱居ヲシテ無効ナリトモ其旨
モ從テ無効ナリ理勢カク然ラズル所ナリ一身ニテ有家ノ戸主
トナルカ如キ奇觀ノ呈ス可キ道理ナリ依リ被先ノ被撥ニ採
用スルハナシ

上乗説明ノ如クナリテ被先ノ隱居ニ定母コカハ縁法ニ由
テ分リトスルモ當ノ年月ニ是カカルニ固リ其隱居ニ無効ナ
リト被先ノ主張ニ其理同スルニ固リ之ヲ採用スルモ隱居
ニ被先ノ被撥ニヨリテ之ヲ採用スルハ其旨ノ所ナリトモ

一隱居ニテ無効ナリトセシガ月消ス可キ隱居ノ存在ス可キ旨理
 ナリトシテ新新條ニ基キテ大可ナリ判理ヲ兼テ其序判決ト
 符合セザルニテ其旨 許法第百三十一條後段ニ依リ
 該判決ヲ廢棄スル許法第百三十一條前段第百三十一條第百三十一條第
 百三十二條第百三十三條第一項及第七十三條第一項ニ依リ先
 欠解ニ依リ生シタル者及ヒ許法第百三十一條前段第百三十一條第
 百三十二條第百三十三條第一項及第七十三條第一項ニ依リ先
 並ニ其旨ニ基キテ其旨 許法第百三十一條後段ニ依リ先
 ヲ被告ヨリテ之ノ自換セシム可キモノトス 依テ其旨
 如ク判決ス

山北地方裁判所民事部

裁判長 利幸 上村佐五郎

判事 中村貞三郎
 判事 廣瀬又次郎